



PROFILE 照屋 礼 (12)

浦添市港川出身。けん玉道4段(日本けん玉道協会)、検定マスター1級(グローバルけん玉ネットワーク)。独楽検定6段(日本こままわし協会)。2019年全日本こま技選手権大会小学生の部優勝。2017年11月学童保育まつりで芸名「ZERO」としてパフォーマンスデビューし、以後様々なイベントでパフォーマンスを披露。プロモーションチーム「スピニングア」へ父と共に加入し活動の幅を広げている。

参加費 無料 けん玉教室 参加者募集!

てだこホール前でだこ広場で毎月第3日曜日にけん玉教室スタート。詳細はInstagramから問い合わせください。



ZEROのパフォーマンスは父親が管理するInstagramで見ることができます。



Instagram
@kyoteruya



Twitter
あわせけんだまぶ

「コッソコッソ」とリズム良くけん玉を操り、コマを空中に投げ、手や足でキャッチし様々な技を繰り出したかと思えば、けん玉とコマのコラボ技「けんコマ」を披露する小学生がいます。照屋礼さん(12)。

けん玉は4段、コマに至っては6段。日本で3人、小学生としては初、日本独楽まわし協会が認定する最高位の腕前を持ちます。

礼さんが最初にコマに出会ったのは保育園の時。友だちがコマで遊んでいるのを見て魅かれたのを覚えていると言います。その時は手にしませんでした。コマのことがずっと気になっていた礼さんは、ある時家族で行ったうどん屋さんで、メニューに付いていた選べるおもちゃの中から、迷わずコマを選びます。初めてコマを手にした瞬間でした。

幼いながらに見よう見真似でコマをまわそうとしますが、そう簡単に回せるわけもなく、すぐに飽きてしまい、コマはおもちゃ箱の奥へと姿を消してしまっています。それから2年が経ち、小学校へ入学し1年生の時に通った学童がきっかけで再びコマに魅かれます。「学童にいた指導員さんがすごくコマが上手だった。それを

見ていいなと思った」という礼さん。ユーチューブで動画を見ながら練習を重ね、周りも目を見張るほどの腕前となり現在に至ります。

一方、けん玉と出会ったのは2年生の時。小学校の建て替えに伴い、校庭で遊べなくなる子どもたちのために、学校から全生徒に配布されたのがけん玉で、放課後子ども教室で日本けん玉協会沖縄支部支部長慶留間さんにけん玉を教えてもらえる機会に恵まれ、めきめきと上達していききました。

礼さんは言います。「両方ともやめようと思ったことはありません。コマの壁にぶつかったらけん玉を。けん玉の壁にぶつかったらコマをと、交互に壁を乗り越えてきました。その過程ではお父さんの存在も大きかったかもしれないです」と少しはにかみます。けん玉とコマ交互に熱中して壁を乗り越えてきた陰で礼さんを支えた父・響さん。「周りに一緒に楽しむ相手がいることも大事だと思ったので、息子がコマに熱中している間に私はけん玉の練習をした。いくつかの技は息子よりも先にできるようになった」と話す父を見た礼さんは、「それはとても悔しかった」と、父の存在が技術向上の原動力となったと明かします。

家族二人三脚で歩んできたけん玉とコマの道。2018年11月に日本独楽まわし協会が認定する最高位の6段に小学生では初めて合格し、2019年3月には全日本こま技選手権大会小学生の部で優勝に輝きます。「出場直前に利き手親指を骨折するというトラブルに見舞われましたが、いろいろな人のサポートがあり、結果を残すことができた」と母・貴子さんへのつながりに感謝します。

けん玉とコマのおかげで日本のみならず世界に友達がいるという礼さん。けん玉の最高の誉め言葉は「ヤバイ!」。言葉は通じずともけん玉とコマが最大のコミュニケーションツールになるという母・貴子さん。「いろいろな経験をして成長してほしい」と願います。

礼さんの夢はいろいろなパフォーマンスができる大道芸人になり、いつかシルクドソレイユの舞台に立つこと。「けん玉やコマに加えて、ペン回しやリフティングなどいろいろなことに挑戦し、パフォーマンスの幅を広げていきたい」という礼さん。「夢を叶えるためには挑戦と練習あるのみです。自分のパフォーマンスに期待してほしい」と力強く話すその姿は「ヤバイ!」の一言。これからの道を究める挑戦は続きます。

ROAD

輝く人たち No.34

自分へプレッシャーを かけることが夢への近道